

# 荒木俊成のデザインペイント

基礎②「テーピング手法」 – マスキングテープを活用したデザインペイント手法 –



2017年7月5日(水) 関西ペイント(株)大阪本社にて  
行われたPXIペイントアカデミー ワークショップ

＜荒木俊成のデザインペイント  
基礎②「テーピング手法」＞  
についてレポートいたします。

荒木俊成さんを講師にお招きして開催する「デザインで価値を創造するPXIペイントアカデミー」の2回目は、塗装の現場でもよく使われているマスキングテープやビニールテープを使った、デザインペイントテクニックを学ぶワークショップです。



ワークショップの冒頭では、関西ペイント販売(株)・建築販売本部顧問 杉田から「デザインペイントの時代が来ている」というお話をさせていただきました。塗装の独自性や仕上げの違い、質感など、塗料だからこそできるいろいろな表現法や塗料の力について、実例写真などのスライドを交えてご紹介いたしました。

「デザインペイントの時代②」については、PXI【コラム】でもご紹介しておりますので、こちらも併せてお楽しみください。



続いて荒木さんにマイクをお渡しし、ワークショップの本题についてお話を進めていただきました。最初は、これまで荒木さんが手がけてこられた現場のサンプルを見ながら、テーピングの魅力やポイントについてのお話です。

「通常、テーピングは塗装の仕事でマスキングや養生として、汚してはいけないところをカバーするために使っています。これを発想転換してデザインにも生かしていこうというのが今回のテーマです。デザインペイントには、大きく分けてフォーフィニッシュ、エイジング、アートの3つの要素があります。これらにテーピングの技法を重ねると、掛け算のようにバリエーションが増えます」

例えば、スポンジングの技法で壁一面を塗装した場合、デザイン的には単調になりやすいものです。これにテーピング技法を加えて、区切ったりすることでデザイン性が生まれたり、アクセントになったりします。またシャープな線や鋭角な部分を出したり、テープを手でちぎってあえてギザギザの線を表現することもテープならではの魅力です。



「それは塗装だけではなかなか出せない味わいであり、いろいろなものが組み合わせることで何千通りにもなって面白さも増していくと思います」と荒木さん。

皆さんの最初の作業は、テープを貼って剥がしたところが模様になることをイメージしながら、下地の色やデザイン構成を考えていくところからスタートしました。デザインイメージを膨らませている間も、荒木さんはテーピングによる個性的なデザインや表現方法を、サンプルを見せながら話してくださいました。



「テープの直線だけでは物足りない方、きっとおられると思います。用意した道具の中にビニールテープがありますが、テープをしっかり押さえて曲げたい方向へ徐々に引っ張っていくと曲線をつくることができます。また、マスキングテープはいろいろな幅のものが販売されています。貼り合わせて幅広にし、マジックで葉っぱの模様やイニシャルなどを描いて切り抜けば、1点もののデザインが出来上がります。ステンシルのようなものです」

そう話された後、ブリック（レンガ）の型紙を使ったステンシルの実演を見せてくださいました。この方法はテーマパークでは定番で使われる技法だそうですが、砂を混ぜた塗料などを使い、型紙の上からコテで塗ると、目地部分が凹んで厚みのある仕上がりにもなるそうです。

「前回ご紹介したばかりのテクニックと合わせてブリックをつくれれば、非常に表情豊かないろいろなものができます。NYの街並みを表現するときなどは、必ずブリックと石というのは出てきますし、洋風居酒屋の施工など、実際の店舗でもかなり要求されるようになってきました」と荒木さん。



この他にも、実際の現場で最近注目されている技法のお話や道具、材料の使い方、安く購入できる方法など興味深いお話をいろいろとしていただきました。

荒木さんのお話に耳を傾けながらも、皆さんの作業は順調に進み、斬新な発想の作品がどんどん仕上がっていきました。先ほどの型紙を使ってブリックにチャレンジされた方、鉛筆で線を足したり、ビニールで模様を付けたり、自分なりのアレンジをプラスした方など、取り組み方も様々です。ほとんどがテーピングは初めて、とは思えないほどの完成度です。

荒木さんも作品を見られて「絵心のあるいいものが作られていて、逆にこちらが刺激されたり、驚かされています。一つの道具でも押さえ方一つで全く変わります。使い方、合わせる材料でいろいろなテクスチャーが生まれるので、どれだけのことができるかということを感じていただけたらと思います」とうれしそうに話されていました。



皆さんの作品が仕上がり、荒木さんからお一人お一人に講評を伺った後、修了書をお渡ししてワークショップが終了しました。今回参加された方は、塗装の現場などで実際に作業をされている方も多く、作業についてはスイスイこなされていましたが、どう表現するかについては頭を悩ましている様子でした。

荒木さんも「作業している間に何かヒントになって偶然生まれてくるものもある」と言われていたように、多くの方が一堂に会して作品を作られるワークショップは、いろいろなアイデアが見られて非常に刺激を受けられるとても良いチャンスです。



今後ともPXIでは、皆さんのお仕事につながるいろいろな情報発信をしながら、ペイントのご提案などをさせていただきたいと考えております。ぜひ次回のセミナー、ワークショップにもご参加ください。お待ちしております！

